

いのち
生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2015年
第61回

日本母親大会

in
兵庫

戦後・被爆70年。
世界に「核戦争から子どもを守ろう」とよびかけ、
草の根の母親・女性の願いや要求を語り、歩みつづけて61年。
61回目の日本母親大会が兵庫県・神戸市を中心にひらかれます。
みんなでさそいあってあつまりましょう。

第1日目 全体会 **8月1日 土** ◆12時45分～17時
◆会場 神戸国際展示場 (1号館・2号館)

記念講演

古川美和さん(弁護士)

戦後・女性参政権獲得70年
一憲法・平和、ジェンダー平等の
実現を!



石川康宏さん(神戸女学院大学教授)

戦後・被爆70年 日本国憲法と
ともにあゆみつづける
—子どもの未来・くらし・平和



第2日目 分科会 **8月2日 日** ◆10時～15時
◆神戸国際展示場、神戸国際会議場、神戸市外国語大学

子どもと教育、くらし、権利、労働、平和と民主主義、女性の地位向上めざして、
さまざまな問題をテーマ別に話し合います。



非核「神戸方式」の碑

平和のみみ(美海)ちゃん 母なる海からの平和のメッセージを聞く少女の像

主催●第61回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837
開催●兵庫県母親大会実行委員会 兵庫県神戸市中央区下山手通7-11-16 協英ビル204 TEL 078-351-3367 FAX 078-351-3366
協力●近畿ブロック各県母親大会実行委員会(滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪)

母親が変われば社会が変わる!

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

母親大会のはじまり

—「日本婦人の訴え」から 「世界母親大会開催へ」

1954年、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ3度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうさんら5人は全世界にむけ「原水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には河崎なつさんを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ

—くらし・平和を守ってたくさんの 母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、60年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命（いのち）を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

兵庫にあつまましょう

戦後・被爆70年の節目の年、第61回日本母親大会は、兵庫県・神戸市を中心に開催されます。開催地兵庫県は阪神淡路大震災から20年を迎えました。神戸市は、北にみどり豊かな六甲山、南には古くから国際交流の拠点として発展する、非核神戸方式40年の神戸港があります。兵庫県実行委員会では、全国のみなさんを迎えようと、全力で準備をすすめています。1日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演は古川美和さんと石川康宏さんです。2日目はテーマに分かれての分科会です。

母親大会はだれでも参加できる大会です。厳しい情勢のときだからこそ、母親大会に集い、明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。兵庫で開催される第61回日本母親大会に、北から南から、世代をこえてさそいあい、よびかけあってあつまましょう。